

令和7年度 鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校

校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自ら考え、学びあう子どもの育成 ～伝えあうよさを実感できる授業づくりを目指して～
教科・領域	国語科

2 主題設定の理由

本校では、学校教育目標「知・徳・体 調和のとれた子どもの育成」のもと、「(1)自分も他者も大切にする子。『心豊かな子』」「(2)自ら学び、考えて行動する子。『学ぶ子』」「(3)地域に愛着と誇りをもつ子。『鼓の子』」を目指して日々の教育活動を行っている。

児童数は、年々減少傾向にあり、6学年全て単学級になっている。それゆえ、固定化した人間関係や多様な考えに接する機会が限られてしまうといった小規模校特有の課題が存在している。特に学習場面では、学年が上がるにつれてこれらの課題が顕著に表れる。「難しい問題は、あの子が答えてくれる」「この子に任せておけばうまく説明してくれるだろう」といった、他人任せで主体的に学習に取り組むことに苦手感をもつ児童がどの学年にも見受けられる。

令和5年度は、「自ら考え、学びあう子どもの育成～わかりあう喜びを実感できる授業づくりを目指して～」を研究主題とし、国語科において研究を行った。

取組を通して以下の成果がみられた。

- 「できる・わかる」と感じ、意欲的に考えようとする児童の姿が増えた。
- 友だちの考えから学ぼうとする児童の姿がみられた。

その一方で、以下の課題がみられた。

- 基礎学力が定着しにくく、「自ら考える」前に「できない」「難しい」と考えることをあきらめてしまう児童の姿が一定数みられた。

これらの課題より、「わかりあう喜び」を実感させることへの難しさを感じ、わかりあうために、まずは伝えあいができることが大切であると考えた。

そこで、令和6年度は、令和5年度の主題は継続し、副主題の「わかりあう喜びを実感

できる授業づくりを目指して」を「伝えあう喜びを実感できる授業づくりを目指して」に改めた。

本校の児童にとって、物語文であれば登場人物を自分に置き換えやすく、自分事のように考え、気持ち等が想像しやすくなることで、自分の考えや思いを互いに伝えあうことにつながりやすくなると考え、国語科の物語文を中心に研究を進めた。

取組を通して、以下の成果がみられた。

- 学習の見通しをもち、学習の目的を意識し、意欲的に取り組む児童の姿がみられた。
- 意見がつながることで、学習内容を理解できる児童の姿もみられた。

その一方で、以下の課題がみられた。

- 相手に分かりやすく伝える力や自分の考えと比べながらきく力が身につけていない。
- 学びあいの場面において考えを広げたり深めたりすることが十分にできていない。
- 「自分の考えをうまく言葉で表現することができない」「友だちの言いたいことがよく分からない」と感じる児童が一定数みられる。

そこで、令和7年度は、研究主題を継続し、以下の取組を重点的に進めていく。

- 考えたいと思わせるための学習課題や発問等を工夫する。
- 自分の考えを表現しやすくさせるために、話型を提示したり、叙述をヒントにさせたりする。
- 考えを深められるようにするために、ペア・グループ学習、ICT機器等を活用し、他者と対話しやすくする。

また、副主題の「伝えあう喜びを実感できる授業づくりを目指して」においては、児童に伝え合うことの喜びを実感させることが難しかった。

そこで、「伝えあうよさを実感できる授業づくりを目指して」に改め、伝え合うことで、友だちの考えを知れたり、自分も考えが持てたり、友だちの考えから学び自分の考えをさらに広げたり深めたりできる様々なよさを感じられるようにしていく。

伝えあう学習を通して言葉を正確に理解し適切に表現するための資質・能力を育成することを大切にしていきたい。

そして、伝えあう活動の中で「友だちの言いたいことがわかった」「友だちの考えをきいて自分の考えをもつことができた」「自分の思いや意見を相手に伝えることができた」という経験を積み、伝えあう喜びや達成感を味わえるようにしていく。

うまくいかなかった時にこそ、互いが互いの考えや頑張りを認めあい、その頑張る姿勢を褒めあえる仲間関係を築けるようにし、主体的に学びあおうとする「自ら考え、学びあう子どもの育成」につながるよう取組を進めていく。

3 研究内容及び方法

1 国語科で目指す子どもの姿

『自ら考える姿』

言葉の特質を理解し、適切に使う力を身に付け、言葉によって自分の考えをもったり、新しい考えを生み出したりする姿。

『学びあう姿』

自分の思いや考え、疑問等を伝えあうことで、学びを確かなものにしたたり、広げたりする姿。

『伝えあうよさを実感する姿』

互いの思いや考え、疑問等を尊重しあいながら伝えあう中で、思いを伝えられたり、わかってもらえたり、新しいことに気付いたり、考えを広げたり深めたりできることへのよさを感じる姿。

2 自ら考え、学びあう子どもの育成に向けた取組

(1) 自ら考え、学びあう授業の学習過程モデルに沿った授業実践

○「めあての提示」「発問・課題の提示」「自力解決」「学びあう」「まとめ・振り返り」の学習過程の流れを基本として「自ら考え、学びあう」授業づくりを進めていく。

① めあての提示

・学習活動の見通しをもつ。

「○○の気持ちの変化について考えたことを交流するんだな」

② 発問・課題の提示

・本時の課題をつかむ。

・課題解決のための方法について確認をする。

「どんな考え方に変わったのかを考えるんだな」

「気持ちの変化ときっかけになった出来事をつなげて考えればいいんだな」

③ 自力解決

・自分の考えをもつ。

・自分の考えをわかりやすく伝えるための言葉を考え表現する。

「やってみよう!」「この言葉を使って考えてみよう!」

④ 学びあう

・ペアやグループで交流する。

・全体で交流する。

・学習のねらいに応じて、全体交流・ペア活動やグループ活動を選択する。

「わかった!」「そんな考えもあるんだ!」

「もっとくわしくきいてみたい!」「どういうことかな?」

⑤ まとめ・振り返り

・課題に応じたまとめを書く。

・国語用語やキーワードなどを使って、めあてに応じた学びの振り返りをする。

「○○だとわかった!」「この叙述から考えることができた」

「○○さんの考えをきいて考えがかわった」「次は○○について考えたい!」

(2) 学びの基本となる学級づくり

- 学級の中に自分の居場所があり、互いに思いや考えを尊重しあい、認めあえる学級づくりを行う。
- ペア・グループ学習を中心に「友だちの考えをきいて自分の考えをもつことができた」「自分の思いや意見を相手に伝えることができた」という経験を積ませ、伝えあうよさや達成感を味わえるようにする。

(3) 基礎・基本としての国語の知識及び技能の習得

- 基礎的な問題（CBTワークシート・今日の一問、学Vivaドリル(セット)・「読む・書くワークシート」「よむYOMUワークシート」等）に取り組みさせる。
- 国語科の用語・方法・原理・原則等を掲示など教室環境の整備を行う。
- 読書活動の充実に向けて取り組む。

(4) ICT機器の効果的な活用

- 視覚支援を充実させる。
- 情報収集や考えをまとめたり発表したりする場面で活用させる。
- 学びの共有・考えの比較検討場面で活用させる。
- 作文の添削や協働的な学習場面で活用させる。

(5) 家庭学習習慣・読書習慣づけ

- 「家庭学習の手引き」を配付する。
- 「家庭学習強化週間」「読書週間」を実施し、保護者と連携した取組をめざす。

4 年間研修計画

学期	日程	内容
1 学 期	5月12日(月)	第1回校内研修 ・今年度の研修の方向性
	5月12日～18日	家庭学習強化週間の実施・集約
	5月23日まで	全国学力調査・みえスタディ自校採点
	5月28日(水)	第2回校内研修 ・国語科における児童の実態・意識して取り組んでいること(各学年より) ・「自ら考え学びあい伝えあい」に向けた学習課題・発問・ペアグループ全体対話について
	6月30日～7月4日	国語アンケートの実施・集約
	7月24日(木)	人権レポート研修会①(PM)
夏 季	8月4日(月)	鼓中校区夏季研修会 第3回校内研修(13:30～) 全国学力調査・みえスタディの結果分析と自校の重点課題に対する今後の取組について

	8月8日(金) 8月20日(水)	教育講演会(全員学習会) 教研集会(「国語科教育A」発表) 親子読書の取組(夏季休業中課題)
2 学期	10月15~21日 10月24日(金) 10月31日(金) 11月5日(水) 11月12日~18日 11月13日(木) 11月20日(木) 11月27日(木) 12月1日~5日	家庭学習強化週間 第4回校内研修 1年生 国語科研究授業事前検討会 第5回校内研修 1年生 研究授業・事後検討会(指導主事 鈴木先生) 第6回校内研修 4年生 国語科研究授業事前検討会 読書強化週間 第7回校内研修 4年生 研究授業・事後検討会(指導主事 鈴木先生) 第8回校内研修 〇年生 人権研究授業事前検討会 第9回校内研修 〇年生 研究授業・事後検討会 国語アンケートの実施・集約
3 学期	1月20日(火) 1月19日~25日 1月28日(水) 2月2日~8日 2月4日(水) 2月25日(水)	第10回校内研修 たんぽぽ学級 研究授業事前検討会 家庭学習強化週間 第11回校内研修 たんぽぽ学級研究授業・ 事後検討会(指導主事 〇〇先生) 読書強化週間 人権レポート研修会② 第12回 校内研修 「今年度の研修のふりかえり・来年度に向けて」